

持続可能な同窓会を目指して

デュッセルドルフ日本人学校同窓会役員会

同窓会は、長年恩師・同窓生の交流に貢献してきた

同窓会の実績

- デュッセルドルフ日本人学校同窓会は1996年に設立され、現在23年目を迎える。
- 同窓会の会員は現在恩師約320名、同窓生約9,600名。
- 総会、懇親会をこれまで8回実施。前回の20周年の参加者は500人以上。
- HPでの同窓会活動の情報の発信。
- 同期会開催時の同期の連絡先の提供。

しかしながら同窓会の運営体制は、持続困難な状況である

同窓会の運営体制の現状

- 過去には役員会が機能せず、同窓会解散が検討されたこともある。
- 同窓会創立20周年は同窓会役員以外の2名の有志が参加し、企画、運営。
- 現在の役員は書記が2名欠員。
- 受ける人が見つからず、副会長は2名とも通算9年目。
- 年度幹事は、全48期のうち、登録されているのは24期。

同窓会を持続可能なものにするためにも、一度同窓会の運営体制をゼロから見直す必要がある

同窓会の運営体制の見直し



同窓会の活動として、同窓生・恩師の交流と母校・デュッセルの情報提供が期待されている

昨年のアンケートの結果

- 同窓会に期待する役割とは何ですか？（合計373票、複数回答可）
 - 同期との連絡を取れるようにする： 277票 (74%)
 - 恩師と連絡を取れるようにする： 230票 (62%)
 - 今のJISD、デュッセルを紹介する： 213票 (57%)
 - 全体の同窓会（懇親会）を開催する： 209票 (56%)
 - 同窓生の活躍を紹介する： 144票 (39%)
 - 先輩・後輩と連絡を取れるようにする： 129票 (35%)

これらの活動をこれまで通り同窓生自らが運営するのか、コストをかけて外部に委託するのか、検討すべきである

新しい同窓会運営体制における論点

引き続き同窓生で運営する

Yes

No

- 運営体制を変えるなら、どう変えるか？
- どう運営メンバーをそろえるか？

- 何を外部に委託し、何を同窓生で行うか？
- 外部委託のコストをどうカバーするか？

同窓会の大きな変化であり、会員のコンセンサスを取りながら検討を進める

運営体制見直しのステップ

